

<概要版>

栃木市上下水道事業調査委員会(第1回)会議録

開催日時	令和6年8月8日(金) 10:00～11:30
開催場所	きららの杜とちぎ蔵の街楽習館 4階講義室
出席委員	藤井亮二委員、湯川晴美委員、岡田真由美委員、和久井賢司委員 門沢イミ子委員、荒山菜穂子委員、進上一巳委員、田島富美子委員、 山ノ井一男委員、深津智子委員、池澤佐知子委員、大浦兼政委員、 市村隆委員 (欠席: 川津美智子委員) 以上13名
市	上下水道局長 上下水道総務課: 課長、課長補佐兼経営係長、課長補佐兼経理係長、 料金係長、経営係職員 水道建設課: 課長、副主幹兼施設係長、課長補佐兼建設管理係長、 副主幹兼給水係長 下水道建設課: 課長、課長補佐兼管理係長、副主幹兼建設係長、 課長補佐兼保全係長
局長あいさつ	小野寺局長よりあいさつ
委員長あいさつ	藤井委員長よりあいさつ
議事概要	(1) 調査委員会の進め方(課長補佐兼経営係長より説明) ・栃木市上下水道事業調査委員会について ・会議等の公開、非公開について 【委員質疑】なし (2) 令和6年度上下水道局の運営方針について (上下水道総務課長・水道建設課長・下水道建設課長より説明) 【委員質疑】 上水道については、特に地震の場合どんなに対策をしても水が出なくなることがある。栃木市のいちご農家では温度調節のために地下水を循環させて利用しているが、それを緊急対策として利用したらどうか。もう一つは、昔からの家庭では今でも井戸ポンプを利用している。それを調べておき緊急の時に隣近所で利用するなどを、緊急対策で考えたらどうか。 (回答) 栃木市では各地域に防災井戸がある。いちご農家では、栽培用に内側のウォーターカーテンに水をかけ流しで使っている。水質検査等の対策はしていないと思うので飲料水としては難しいが、トイレ等に使えるかどうか等上下水道局内や危機管理課とも相談したい。

【委員質疑】

災害が起きて上下水道が使えなくなった時の対策が市民に伝わっていない。災害の対策として市の考えを示せば、安心もでき、さらに提案もできると思う。

(回答)

次回説明ができるようにしたい。

【委員質疑】

スマートフォン決済ができるのを初めて知った。水道料金でもポイントはつくのか。

(回答)

ポイントはつく。ポイントがつけば検討する方も多いと思うのでホームページ等で広報したい。

【委員質疑】

主な事業内容の管路耐震化事業で、耐用年数40年を経過した塩化ビニル管を優先して耐震性を有する管へ布設替えを行うと書いてあるが、昨年度の事業実績と今年度の予定を見ても3km弱位の接続だが、どれくらい残っているのか

(回答)

約280kmある。

【委員質疑】

それを毎年3kmずつやっていると前に説明で聞いた。3kmやるのも大変な事業だと思うが、約100倍残っていると知ってもらうことも大切かと思いあえて質問をした。

(3) 令和5年度決算見込み（課長補佐兼経理係長より説明）

(水道事業)

令和5年度は2億2千8百万円の利益が出たが、4年度、5年度は電力価格高騰に対する補助金等が一般会計より繰り入れられている。

ここ2年間投資を抑えている状態もあり、今年度は供給単価が給水原価を上回り経営状況は改善方向に向かっている。

(公共下水道事業)

収益的収支では5400万円の利益がでているが、赤字補填の性格を持つ一般会計からの基準外の補助金も継続している。

(農業集落排水事業)

資本的収支について、支出の大半は借金の返済。収入は一般会計からの補助金と不足額は減価償却費に充てられた現金分で補う。

【委員質疑】

資本的収支全ての基準において不足が増えており積立金で補っているというこ

とだが、不足傾向はずっと続いているのか。そして大丈夫なのか。

(回答)

基本的に公営企業の資本的収支について、収入が支出を上回ることにはほぼない。収益的収支の黒字分と現金の支出のない減価償却費、資産減耗費で赤字分を埋めている。資本的収支の予算は、現金が払えない予算は絶対組めないようになっているが、本来もっと資本的支出による施設の増強に努める必要がある中、資本的収支の赤字を埋めるための収益的収支の利益が上がらなかったためできていない。今回の料金値上げで、できるだけ資本的支出に回せるようにしていきたい。

【委員質疑】

専門用語が出てきている中で皆さん理解ができたのか。理解するまでに相当時間を要すると感じる。もっと簡素化した分かりやすいものでいいのではないか。

【委員質疑】

正直半分も理解できないが、事務局の説明をこれ以上簡素化するのは難しいのではないか。細かい予算書決算書を見やすいよう表にしているので、この程度でいいと思う。

【委員質疑】

専門用語が多すぎるので、用語説明があるといい。

(回答)

ホームページでも細かい用語集は公開していないが、確かに用語が分からないと思う。次回には用語説明を作成してお渡しする。

【委員質疑】

令和5年度の有収率が70.06%で、作った水の30%がどこかに消えているということ。全国の類似団体を見ても89.2%。これは施設更新をするための説明資料だと思うが、説明が早く理解しづらかった。今回は料金の答申をする状況ではないため、何か目的をもって進めた方が、委員も参加していて何のための説明なのか、そしてどんな意見を求められているのかが見えてくると思う。

(回答)

できるだけまとめて分かりやすい資料作成をしたい。

【議長】

多くの役所が図表を提示しているだけにとどまることが多い。委員が説明したように1行か2行加えると特に一般の人に分かりやすくなる。

【委員質疑】

補助金で、農業集落排水が令和4年以降増加傾向にあるという理由は。

(回答)

農業集落排水は、ある一定の地域の生活排水を処理する施設として市内に6か所ある。施設が設置されてから大体15年以上経過したため補修修繕に対する増加分になる。

(4) 令和6年度の予算（課長補佐兼経理係長より説明）

（水道事業）

水道料金を含む収益は、今年度4月からの料金改定により、前年度予算と比べ2億3千3百万円の増。収益的収支予算について、収益に対し費用が上回る赤字予算となっているが、昨年度と比べると予算時における赤字見込額は減少している。

（公共下水道事業）

収益的収支予算について、今年度4月からの料金改定により、前年度予算と比べ2億1百万円の増。費用が増加した主な要因は、流域下水道維持管理費が前年度予算と比べ2億3千3百万円増加したため。

（農業集落排水事業）

収益的収支予算について、収益は前年度と比べ増減なし。費用が増加した主な要因は、処理場の電気代の増加である。

【委員質疑】

水道の給水戸数が令和5年度より減っている。ところが、公共下水道は令和5年度より増えている。その理由は。

（回答）

水道の拡張工事は基本的に完了しているため、人口減による自然減だが、下水道はまだ拡張工事を行っているため増えていくことになる。

【委員質疑】

水道の給水戸数が6万2千戸に対して、下水道の接続戸数が3万3千戸で半分以下なのは、給水を受けているのに下水に接続していないということか。

（回答）

下水道は事業認可区域があり、栃木市全域ではない。市街化区域を中心に認可区域として整備しており、水道の整備区域とは違うためその差が出てくる。

【委員質疑】

下水道に接続していない方はどこに排水しているのか。

（回答）

下水道に接続していない方は2パターンあり、先ほど話した農業集落排水と、合併浄化槽を設置して放流、それ以外の方は単独浄化槽がある。

【委員質疑】

下水道予算にある補助金は、議会の後でこの額がもらえるのか。

（回答）

予算については議会で可決されているためもらえる。

【委員質疑】

3月議会が予算の審議をし、9月議会が前年度の決算審議をすると覚えるといい。

【委員質疑】

皆さんの意見にあるように、なかなか仕組みが分からない。例えば衛星画像を用いた漏水調査業務委託は、漏水調査を効率化するという内容だが、新技術も取り入れながら漏水を減らす努力をしているということを皆さんに理解していただくような委員会でもいいと思う。

【委員質疑】

中央会議の初期メンバーだが、いろんな会議に出た委員からの報告はなかった。議会でも将来の人口減少に伴い上下水道は本当に厳しい状況でいつ破綻してもおかしくないという意見も出ている。せっかく委員をやられているので、皆さんが発言しやすい状況を作っていただき、それを生かしていただくことを今回の目的の一つにしてほしい。

また、巴波川のし尿処理センターの件も、クリーン推進課が担当しているとはいえ、関連しているものなのでぜひ説明いただき、全体が見えてきたときにいい意見が出てくると思う。その辺の努力を少ししていただき今までとは違う会議体を作ることを望む。

(回答)

今まで上下水道調査委員会は料金改定時だけ開催していた。資料も簡略化はしているが、どこまで簡単にすればいいか、どういうところが分からないのか等が疑問なため、率直な意見をいただくのは非常にありがたい。皆さんからご意見をいただけるような委員会にしていきたいと思う。